FireSIGHT システムと RADIUS ユーザ認証用の ISE の統合

内容

概要 前提条件 要件 使用するコンポーネント 設定 ISE の設定 ネットワーク デバイスとネットワーク デバイス グループの設定 ISE 認証ポリシーの設定 : ISE へのローカル ユーザの追加 ISE 認可ポリシーの設定 Sourcefire のシステム ポリシー設定 外部認証の有効化 確認 トラブルシュート 関連情報

概要

このドキュメントでは、Cisco FireSIGHT Management Center(FMC)または Firepower 管理対 象デバイスを Remote Authentication Dial In User Service(RADIUS)ユーザ認証用の Cisco Identity Services Engine(ISE)と統合するために必要な設定手順について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- GUI またはシェルによる FireSIGHT システムおよび管理対象デバイスの初期設定
- ISE 上での認証ポリシーおよび認可ポリシーの設定
- RADIUS の基礎知識

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco ASA v9.2.1
- ASA FirePOWER モジュール v5.3.1
- ISE 1.2

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このド キュメントで使用するすべてのデバイスは、初期(デフォルト)設定の状態から起動しています 。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的 な影響について確実に理解しておく必要があります。

設定

ISE の設定

ヒント: ISE の認証ポリシーおよび認可ポリシーを、Sourcefire などのネットワーク アクセ スデバイス (NAD) との統合をサポートするように設定する方法は複数あります。 次の例 は、この統合を設定するための方法の 1 つです。 設定例は一種の評価基準であり、採用し て特定の導入のニーズに合わせて変更させられます。 認可の設定は、2 つの手順のプロセ スであることに注意してください。 1 つ以上の認可ポリシーを ISE で定義し、ISE に RADIUS 属性値のペア (av ペア)を FMC または管理対象デバイスに返させます。 これら の av ペアは、次に FMC システムのポリシー設定で定義されたローカル ユーザ グループに マッピングされます。

ネットワーク デバイスとネットワーク デバイス グループの設定

ISE の GUI で、[Administration] > [Network Resources] > [Network Devices] に移動します。
 [+Add] をクリックして、新しいネットワーク アクセス デバイス(NAD)を追加します。
 のデバイスの説明になる名前とデバイスの IP アドレスを指定します。
 次の例では、FMC が
 定義されています。



[Network Device Groups] の下で、[All Device Types] の横のオレンジ色の矢印をクリックしま
 す。 アイコンをクリックし
 て、[Create New Network Device Group]を選択します。
 次のスクリーンショットの例では、[Device Type] の [Sourcefire] が設定されています。 この
 [Device Type] は、後の手順の認可ポリシーの規則の定義で参照されています。 [Save] をクリックします。

Create New Network Device Group X					
Network D	evice Groups				
* Parent	All Device Types 📀 Reset to Top Level				
* Name	Sourcefire				
Description					
* Type	Device Type				
	Save Cancel				

- オレンジ色の矢印を再度クリックし、上の手順で設定されたネットワーク デバイス グループ
 を選択します
- Network Device Group

Location	All Locations	\bigcirc	Set To Default
Device Type	Sourcefire	0	Set To Default

[Authentication Settings] の横にあるチェックボックスをオンにします。 この NAD に使用する RADIUS 共有秘密キーを入力します。 同じ共有秘密キーが、後で FireSIGHT MC 上で RADIUS サーバを設定する際に再度使用されることに注意してください。 プレーン テキスト(非暗号化テキスト)のキー値を確認するには、[Show] ボタンをクリックします。
 [Save] をクリックします。

⊻	 Authentication Settings 		
	Enable Authentication Settings		
	Protocol	RADIUS	
	* Shared Secret	•••••	Show
	Enable KeyWrap	i I	
	 Key Encryption Key 		Show
	 Message Authenticator Code Key 		Show
	Key Input Format	ASCII HEXADECIN	MAL

• GUI アクセスまたはシェル アクセスに RADIUS ユーザ認証または認可を必要とするすべて の FireSIGHT MC と管理対象デバイスについて、上記の手順を繰り返します。

ISE 認証ポリシーの設定:

- ISE の GUI で、[Policy] > [Authentication] に移動します。 ポリシー セットを使用する場合、 [Policy] > [Policy Sets] に移動します。 次の例は、デフォルトの認証ポリシー インターフェ イスおよび認可ポリシー インターフェイスを使用する ISE 導入からのものです。 認証およ び認可規則のロジックは、設定方法に関係なく同じです。
- 使用中の方法が MAC 認証バイパス(MAB)または 802.1X でない NAD からの RADIUS 要求

を認証するために、[Default Rule (If no match)] **が使用されます。** デフォルトで設定され ているように、この規則では ISE のローカルの [Internal Users] **ID ソース内のユーザアカウ** ントを検索します。 この設定は、[Administration] > [Identity Management] > [External Identity Sources] の下で定義される、Active Directory、LDAP などの外部 ID ソースを参照す るように変更できます。 単純にして分かりやすくするために、次の例では ISE のローカル でユーザ アカウントを定義するため、認証ポリシーをさらに変更する必要はありません。

Authentication Policy

Define the Authentication Policy by selecting the protocols that ISE should use to communicate with the network devices, and the identity sources that it should use for authentication. Policy Type O Simple O Rule-Based

11	~	MAB	: If Wired_MAB OR Wireless_MAB	Allow Protocols : Default Network Access	and
		 Default 	: use Internal Endpoints		
11	~	Dot1X	: If Wired_802.1X OR Wireless_802.1X	Allow Protocols : Default Network Access	and
		 Default 	: use Guest_Portal_Sequence		
	×	Default Rule (If no match)	: Allow Protocols : Default Network Access	and use : Internal Users	

ISE へのローカル ユーザの追加

 [Administration] > [Identity Management] > [Identities] > [Users] の順に移動します。 [Add] を クリックします。 意味の分かりやすいユーザ名とパスワードを入力します。[User Groups] の選択で、既存のグループ名を選択するか、または緑の [+] 記号をクリックして新しいグル ープを追加します。 次の例では、ユーザの「sfadmin」がカスタム グループの「Sourcefire Administrator」に割り当てられています。 このユーザ グループは、下の「ISE 認可ポリシー の設定」手順で定義される認可プロファイルにリンクされます。 [Save] をクリックします。

Network Access Users List > sfadmin					
 Network Access User 					
* Name sfadmin					
Status Enabled 🔻					
Email					
▼ Password					
* Password	Need help with password policy ? (i)				
* Re-Enter Password					
 User Information 					
First Name					
Last Name					
Account Options					
Description					
Change password on next login					
▼ User Groups					
Sourcefire Administrator					

ISE 認可ポリシーの設定

- [Policy] > [Policy Elements] > [Results] > [Authorization] > [Authorization Profiles] の順に選択 します。 緑の [+] 記号をクリックして新しい認可プロファイルを追加します。
- Sourcefire Administrator のような意味の分かりやすい名前を [Name] に指定します。
 [Access Type] で [ACCESS_ACCEPT] を選択します。 [Common Tasks] で、最下部までスクロールして [ASA VPN] の横のチェックボックスをオンにします。 オレンジ色の矢印をクリックし、[InternalUser:IdentityGroup]を選択します。 [Save] をクリックします。

ヒント:この例ではISEローカルユーザIDストアを使用するため、設定を簡素化するために InternalUser:IdentityGroupグループオプションが使用されます。 外部 ID ストアを使用する 場合、ASA VPN の認可属性が引き続き使用されますが、Sourcefire デバイスに返す値は手 動で設定します。 たとえば、[ASA VPN] ドロップダウン ボックスに Administrator と手動 で入力すると、Sourcefire デバイスに送信される Class = Administrator という Class-25 の av ペア値が生成されます。 この値は、次にシステムのポリシー設定の一部として sourcefire のユーザ グループにマッピングできます。 内部ユーザの場合は、いずれの設定 方法も許容されます。

* Name	Sourcefire Administrato	r]	
Description				
* Access Type	ACCESS_ACCEPT	-		
Service Template				
Common Tasks MACSEC POILCE	5 V			
0	,			
NEAT				
🗌 Web Authenti	cation (Local Web Auth)			
0				
Airespace ACL	L Name			
ASA VPN		InternalU	ser:IdentityGroup	Ø
0			,,	Y







Administrator



Attributes Details

Access Type = ACCESS_ACCEPT Class = Administrator

[Policy] > [Authorization] に移動し、Sourcefire Administration のセッション用の新しい認可ポリシーを設定します。 次の例では、DEVICE:Device Type条件を使用して、 上記の「ネットワーク デバイスとネットワーク デバイス グループの設定」セクションで設定したデバイスタイプに一致するようにしています。 このポリシーは、次に上で設定した Sourcefire Administrator 認可プロファイルに関連付けられます。 [Save] をクリックします。

Status	Rule Name Wireless Black List Defa ult	if	Conditions (identity groups and other conditions) Blacklist AND Wireless_Access	then	Permissions Blackhole_Wireless_Access
~	Profiled Cisco IP Phones	if	Cisco-IP-Phone	then	Cisco_IP_Phones
~	Profiled Non Cisco IP Ph ones	if	Non_Cisco_Profiled_Phones	then	Non_Cisco_IP_Phones
~	Sourcefire Administrator	if	DEVICE:Device Type EQUALS All Device Types#Sourcefire	then	Sourcefire Administrator
~	CWA-PSN1	if	Network Access: ISE Host Name EQUALS ise12-psn1	then	CWA-PSN1
~	CWA-PSN2	if	Network Access: ISE Host Name EQUALS ise12-psn2	then	CWA-PSN2

Sourcefire のシステム ポリシー設定

- FireSIGHT MC にログインして、[System] > [Local] > [User Management] に移動します。
 [Login Authentication] タブをクリックします。 [+ Create Authentication Object] ボタンをクリックして、ユーザ認証または認可用の新しい RADIUS サーバを追加します。
- [Authentication Method] で [RADIUS] を選択します。 この RADIUS サーバの説明になる名前 を入力します。 [Host Name/IP Address] と [RADIUS Secret Key] に入力します。 秘密キー は、前に ISE で設定したキーと一致している必要があります。 バックアップの ISE サーバ が存在する場合は、[Host Name/IP Address] にオプションで入力します。

Authentication Object					
Authentication Method	RADIUS \$				
Name *	ISE				
Description					
Primary Server					
Host Name/IP Address *	10.1.1.254				
Port *	1812				
RADIUS Secret Key	•••••				
Backup Server (Optio	nal)				
Host Name/IP Address					
Port	1812				

RADIUS Secret Key

 [RADIUS-Specific Parameters] セクションで、GUI アクセスに一致する Sourcefire のローカ ルグループ名の横にあるテキスト ボックスに Class-25 の av ペアの文字列を入力します。
 この例では、Class=User Identity Groups:Sourcefire Administratorの値がSourcefire
 Administratorグループにマッピングされています。 この値は、ISE が ACCESS-ACCEPT の 一部として返す値です。 オプションで、Class-25 グループが割り当てられていない認証済 みユーザ用の [Default User Role] を選択します。 [Save] をクリックして設定を保存するか、 または ISE を使用して認証をテストするために下の「検証」セクションに進みます。

RADIUS-Specific Parameters					
Timeout (Seconds)	30				
Retries	3				
Access Admin					
Administrator	Class=User Identity Groups: <u>Sourcefire</u> Administrator				
Discovery Admin					
External Database User					
Intrusion Admin					
Maintenance User					
Network Admin					
Security Analyst					
Security Analyst (Read Only)					
Security Approver					
Default User Role	Access Admin Administrator Discovery Admin External Database User				

• [Shell Access Filter] で、シェル セッションまたは SSH セッションを制限するユーザのカン マ区切りリストを入力します。

S	hel	I A	Access.	Filte	r
~		• •	100000	1.000	

Administrator Shell Access User List user1, user2, user3

外部認証の有効化

最後に以下の手順を実行して、FMC で外部認証を有効にします。

- 1. に移動 システム > Local > システムポリシー.
- 2. 選択 **外部認証** 左側のパネル
- 3. ステータスを次*のように変更*します **有効** (デフォルトでは無効)。 4. 追加された ISE RADIUS サーバを有効にします。 5. ポリシーを保存し、アプライアンスにポリシーを再度適用します。

Access Control Preferences	Status		Eaabl	Enabled 1				
Access List	50003	Storus		eu v				
Audit Log Settings			Access	Admin				
Dashboard	Default Us	er Role	Discov	ery Admin				
Database			Extern	al Database U	lser			
DNS Cache	Shell Auth	entication	Disab	led \$				
Email Notification	CAC Autho	rization	Disab	led \$				
External Authentication								
Intrusion Policy Preferences	Nar	ne Desc	ription	Method	Server	Port	Encryption	
Language	0 ISE			RADIUS	10.1.1.2	54:1812	no	
Login Banner	*							
Network Analysis Policy Preferences								
SNMP								
STIG Compliance								
Time Synchronization								
User Interface								
Vulnerability Mapping								
Save Policy and Exit Cancel								

確認

• ISE に対してユーザ認証をテストするには、[Additional Test Parameters] セクションまでス クロールして、ISE ユーザのユーザ名とパスワードを入力します。 [Test] をクリックします 。 テストに成功すると、緑色の成功**が返さ**れます。 Test Complete というメッセージがブ ラウザ ウィンドウの先頭に表示されます。 Additional Test Parameters

User Name	sfadmin
Password	•••••
*Required Field	
	Save Test Cancel

• テスト認証の結果を表示するには、[Test Output] セクションに移動して、[Show Details] の 横にある黒の矢印をクリックします。 次のスクリーンショットの例では、「radiusauth response: |Class=User Identity Groups:Sourcefire Administrator|"の値をISEから受信しました この値は、上で FireSIGHT MC 上で設定した Sourcefire ローカル グループに関連付けら 0 れた Class の値と一致するはずです。 [Save] をクリックします。

Test Output	
Show Details	•
User Test	check_auth_radius: szUser: sfadmin RADIUS config file: /var/tmp/OPMTHT3qLx/radiusclient_0.conf radiusauth - response: User-Name=sfadmin radiusauth - response: State=ReauthSession:0ac9e8cb0000006539F4896 radiusauth - response: Class=User Identity Groups:Sourcefire Administrator radiusauth - response: Class=User Identity Groups:Sourcefire Administrator radiusauth - response: Class=CACS:0ac9e8cb0000006539F4896:ise12-psn1/191969386/7 "sfadmin" RADIUS Authentication OK check_is_radius_member attrib match found: Class=User Identity Groups:Sourcefire Administrator - Class=User Identity Groups:Sourcefire Administrator ************************************

• ISE の管理 GUI で、[Operations] > [Authentications] **に移動して、ユーザ認証テストの成功ま** たは失敗を検証します。

🙆 Show Live Sessions 🕴	§ A00 or	Remove	Columns 🔻	😔 Refresh							Refresh Every	1 minute 🔹 🔻	Show Latest	100 re
Time	Status	Details	Repeat Count	Identity	Endpoint ID	Endpoint Profile	Network Device	Device Port	Authorization Profiles	Identity Group	Posture Status	Server	Event	
2014-06-16 19:41:55.940	- C	ò		sfadmin			Sourcefire3D-DC		Sourcefire_Admin	User Identity Groups.	NotApplicable	ise12-psn1	Authenticati	ion
2014-06-16 19:41:24.947	•	ò		sfadmin			Sourcefre3D-DC			User Identity Groups.		ise12-psn1	Authenticati	ion f
2014-06-16 19:41:10.088	•	ò		sfadmin			Sourcefre3D-DC			User Identity Groups.		ise12-psn1	Authenticati	lan f
2014-06-15 18:46:00.856	1			sfadmin			SFR-DC		Sourcefire_Admin	User Identity Groups.	NotApplicable	ise12-psn1	Authenticati	ion
2014-06-16 18:44:55.751	×			sfadmin			SFR-DC		Sourcefire_Admin	User Identity Groups.	NotApplicable	ke12-pen1	Authenticati	ion
2014-06-15 18:41:02.876	1			sfadmin			SFR-DC		Sourcefire_Admin		NotApplicable	ise12-psn1	Authenticati	ion
2014-06-15 18:39:30.388	•	ò		sfadmin			SFR-DC					ise12-pen1	Authenticati	ion f

トラブルシュート

• ISE に対してユーザ認証をテストした場合、次のエラーは RADIUS 秘密キーの不一致、ある いはユーザ名またはパスワードの誤りを示しています。

×

Error

Test Failed: Bind failed. Please verify your Authentication Method Specific parameters.

ISE の管理 GUI で、[Operations] > [Authentications] に移動します。 赤のイベントは失敗を
 示し、緑のイベントは認証、認可、または認可変更の成功を表しています。 アイコンをクリ

ックし

Overview

Event	5400 Authentication failed
Username	sfadmin
Endpoint Id	
Endpoint Profile	
Authorization Profile	
ISEPolicySetName	Default
IdentitySelectionMatchedRule	Default

Authentication Details

Source Timestamp	2014-06-16 20:01:17.438
Received Timestamp	2014-06-16 20:00:58.439
Policy Server	ise12-psn1
Event	5400 Authentication failed
Failure Reason	22040 Wrong password or invalid shared secret
Resolution	Check the Device shared secret in Administration > Network Resources > Network Devices and user for credentials.
Root cause	Wrong password or invalid shared secret
Username	sfadmin
User Type	User
Endpoint Id	
Endpoint Profile	
IP Address	
Identity Store	Internal Users

関連情報

<u>テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems</u>